

平成26年度 佐野小学校区 第2回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月14日(火)に開催された「佐野小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
佐野自治会	環境美化推進員会	佐野小学校
見晴台自治会	体育振興会	佐野小学校 PTA
交通安全母の会	三島市立伊豆佐野保育園	北上地区地域包括支援センター

※当日参加者 13 名



会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」等について、参加者の意向を伺いました。

【会場アンケート結果】

テーマ別会議
①防災士の有資格者や自衛隊員など、地域にいる人材を発掘し活用するには?・・・2人
②佐野地区、見晴台地区の交流がもっと深まる方法を考えよう!・・・・・・7人
③消防団を地域で支えていくにはどうしたらいいか考えよう!・・・・・・4人
④その他・・・・・・0人

※①&③と②の2グループに分かれ、話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向
①協議会に向けた取組みを進めたい・・・6人
②連絡会を継続したい・・・・・・5人
③その他・・・・・・1人
協議会設立を検討する場への参加意向
①参加したい・・・・・・8人
②参加できない・・・・・・4人
③その他・・・・・・1人

テーマ①「地域にいる人材を発掘し活用するには？」&③「消防団を地域で支えていくにはどうしたらいいか考えよう！」

●地域の防災体制を強化していくために、地域に埋もれている人材の発掘と活用方法、また地域で消防団を支えていくための具体的方法について意見を出し合いました。

★防災ではどんな人材が必要か？

- ・平日昼間動ける人。退職者など
- ・地域内の指導者になれる人
- ・オールラウンドにできる訓練された人

例えば・・・

- ・救助、防災の専門家（防災士等）
- ・自衛隊退職者（技能を持っている）
- ・大学、高校の先生（歴史、気象の知識）
- ・会社で防災関係を担当された方

地域にとって消防団の存在とは？

- ・地域の安心感
- ・災害時の初動は消防団
- ・消防団が第一

★人材の発掘 どのように人材を見つけるか？

- ・指導者になる人材の調査
- ・消防団に入っている方の同級生等をあたる（上・下でも）
- ・自衛隊を退職された方のピックアップを協力要請
- ・地域防災から発掘。率先して動ける人材の青田刈り

<地域で支消防団をえていくためにやっいてこう！>

■消防団を皆でフォローする

- ・消防団をかわいがる
- ・来なくなった団員の話を聞く。（理由をさぐる）
- ・現役団員だけでなく、OBを頼ってもいい（OBは相談役、仲介役になれる）
- ・体育振興会が協力できることはないか？何が必要か知りたい。⇒話し合える場があるとよい。
- ・自治会に消防団担当役員を設け、いろいろ意見を求める⇒役員会で検討。
- ・消防分団員を励ます会等の企画をする
- ・消防団を中心とした協議会を開催する。

■消防団員をヒーローに！

- ・お披露目、見せ場を用意
- ・消防で行う大会の内容を佐野地区、見晴台地区住民に見せる場をつくる。（子どもの頃より憧れを持てるように）
- ・校区祭（運動会）での日ごろの技術を紹介。
- ・自治会、三島市からのお礼、感謝状
- ・褒める、感謝

★人材の活用 地域で防災講習を行えるようにしたい！

- ・地域主催の講習会ができるように、地域の指導者を養成する。
- ・防災講習を地域で行う。（部門別募集）
⇒忙しい人が多いので、受けやすい講座（コース設定）が必要。部門別にするなど細分化。
- ・町内の役員だけでも救助方法を教えてほしい。

■消防団員にメリットを与える

- ・お金、手当の増額
- ・優遇措置（例：公園掃除は免除、自治会役員をやらなくてもよい等）
- ・地区の役員待遇。役員扱いにする。
- ・表彰制度を増やす。
- ・人脈が広がる。

★人材の養成 必要となる技能を整理しよう！

- ・人命救助（心肺蘇生法）
⇒体育振興会ではイベント時の事故に備え受講（約20人）
- ・色々な立場の方が、各々できる事があると思う。それをはっきりさせよう。
- ・どういった時にどんな技能が必要か整理する！
⇒具体的にリストアップしよう。（医療・建築・介護・マニュアル作成等）
- ・オールラウンドの人を集めるのは困難
⇒まずは分担しながら（部門別）、徐々に意識・技能を上げていく。
- ・防災士有資格者を増やす。

■団員の勧誘方法の工夫

- ・住民の前で活躍できる場を作り、その際に団員募集を行う。
- ・まずは「登録だけ」でもから。
- ・魅力、楽しみをアピールする。
- ・募集を年4回位、市から行ってほしい。

■その他（活動・組織体制について考える）

- ・年齢制限をやめる。
- ・活動時間や任期を短く。

テーマ②「佐野地区・見晴台地区の交流がもっと深まる方法を考えよう！」

(テーマ①班：参加人数7人)

●佐野と見晴台の交流を深めるため、現在の問題点や協力したいことなどについて、意見を出し合いました。

★交流の問題点は？

☐ケーションが離れている
⇒なかなか交流できない
子ども同士の交流も難しい

★今ある交流は？

防災の協力

- ・有事の際、見晴台は佐野からお米の提供を受ける。たいへんありがたい。
- ・有事の際、小学校の待機児童が問題
⇒現在、佐野で面倒をみる検討中

通学路を安全にするための協力

- ・見晴台から通学路に危険箇所があるが、佐野で勘案し、登校時は農耕車を控えてくれている

お祭りでの交流

- ・お祭りは佐野と見晴台で交流している

自治会どうしの交流は、少しずつできている

■活動の拡大

- ・お祭りを拡大していくといいのでは？
- ・子ども会＝父兄の活動⇒子ども会の活動を広げ交流を深めては？

★佐野と見晴台で困っていること、協力したいことは？

●佐野

防災意識の向上

- ・自然災害発生の危険地域が多い。
住民の危機管理意識を高めるには？

年間を通して交流行事あり
昔からきずなづくり定着

●見晴台

災害対策

- ・有事の食糧・飲料水の補助が必要
- ・市の協力を得て、湯郷みしま温泉、三島プリンスと一次避難所としての協定を結んだ⇒距離的な問題はある程度解消

通学路の危険

- ・見晴台からだ、登校時非常に危ない場所（暗い林など）がある／車の通勤マナーも悪い
- ・朝、遅刻者は1人で歩いているので心配。低学年の子は特に危ないので対策が必要
- ・集団登校で、毎朝親が1人必ず同行している
- ・下校時はスクールバスあり（市の補助あり）
- ・町内で朝の通学時間帯は通行しないよう呼びかけている
⇒もっと伝えていく
- ・見晴台の子ども達のことだけで、佐野まで目が届かない

行事への参加率が低い

- ・地域活動（PTA・自治会・子ども会）の参加率が低い
／例：球技大会1学年10人程度の参加

子ども会の行事が異なる

- ・同じ小学校でも子ども会の行事が異なる
／例：見晴台では子ども会がどんど焼きをするが、佐野では地域が行う
- ・個人情報などで佐野の友達の住所がわからず、交流しにくい

■防災の協力体制づくり

- ・境川の整備（大雨時氾濫の危険あり／台風時、学校の前が濁流。中村橋も危険。葦なども多い）
- ・佐野は地元として、境川などの危険箇所を視察し、行政に浚渫（しゅんせつ※）の要望を提出
- ・佐野は毎年ボランティアで川を整備（草刈りなど）
- ・2地区で協力して要請を
- ・見晴台から佐野に作業の手伝いに行くなどして連携していく
- ※河川の水底をさらって土砂などを取り除くこと

■通学路を安全に

- ・通学路の危険⇒自治会へ声をかけてくれれば応援する
- ・保護者も責任を持つ（共働きは免除）
- ・一線を退いた高齢の方が多くいる⇒活躍の場を

■交流者の拡大

- ・行事への参加者が少ない⇒その団体でどうにかしようとして、地域に相談してつながりを広げ参加者を増やす
（地域から老人会などへの連絡もできる）
- ・若い人から積極的に相談してほしい
- ・もっと地域へPR・・・
- ・地道に一步ずつ進めていく

地域包括支援センターの活用

- ・高齢者・弱者との係わり⇒出かける場所づくりが大事。
- ・お年寄りのことなどで相談があれば気軽に声をかけてほしい

2地区の方が集まって情報交換をし、お互いに協力を求めていくことが大事